

全海運事務局研修会開催

活発な論議と和やかな懇談

東京・麹町 2月25日 全国から76名参集

全国海運組合連合会は2月25日、東京・麹町のホテル・ルポール麹町で平成19年度事務局研修会を開催した。



全国の18直接組合と44間接組合(地区組合・支部等)から67名の事務局員が参集した今回の研修会は、まず主催者側から雑喉平三郎副会長・総務委員長の挨拶で幕を開け、小比加恒久会長が『内航海運の現状』と題して、運賃・用船料、高騰する燃料油の問題、内航海運暫定措置事業の実施状況等について講演、次いで本部事務局の高木信男専務理事(事務局長)と中島繁事務局長代理からさらに詳しい組合運営状況等の現状報告の他、今年度の創立50周年記念事業の開催、全海運定款の一部変更について説明された。



小比加会長



雑喉副会長



高木専務理事



中島事務局長代理

この後、質疑応答に移り、出席した事務局員から①ひっ迫する船員不足を背景に、総連合会は適切かつ効果的な広報活動展開すべき②暫定措置事業の預託金を早期返還して欲しい③ポスト暫定措置事業が組上に上がる中で、組合事務局の今後のあり方について検討の場を設けて欲しい、等々の各地で直面している問題について意見が出された。

質問する組合事務局員



懇親パーティー



なお、研修会終了後、出席者と小比加会長、雑喉副会長、本部事務局員を交えての懇親パーティーが開かれたが、全海運傘下組合事務局としては年に一度の交流の場だけに、和やかな中にもそれぞれの地区事情についての意見が交換され、「有意義な会合だった」という声が参集

者から異口同音に語られた。